

第4章 力強さ

活力と夢を
育むまちを創る

第1節 農業

農業を支える人材を育成するとともに、地産地消や特産品・観光等との結び付けを含め、個性ある農業を振興していきます。

重点目標

1. 農地の整備と担い手の育成
2. 地産地消等の推進による地域農業の振興

現状と課題

1. 農地の整備と担い手の育成

町内の農業基盤整備については、ほ場整備をはじめ、利水の確保としての水路整備や水源確保、農作業の効率をあげるための農道整備が行われています。

また、本町では水稻を主とした農業が営まれています。農業者戸別所得補償制度により生産調整が行われており、他の作物への転作がなされています。

しかし、兼業農家が主体であるため、転作が困難になっており、また、農業従事者の高齢化や離農が進んで、遊休農地が増加しつつある状況です。これらの遊休農地をなくすため、平成7年度に生産性の高い水田営農の実現に向けて、地域農業のリーダーとして活動することを目的に農業者リーダー会議が設立され、農地の受委託等により農地の遊休地をなくして有効利用に努めています。しかし、年々委託の申し込みが増えているにもかかわらず、農業収益が低く、重労働であるために若い担い手がおらず、受託は増えていないのが現状です。そのため、農地を集約し、家族経営協定を結んだり、法人化することにより、大型機械などを導入して作業の合理化を図るなど、経営面で工夫し、収益の安定をめざすことが求められています。

2. 地産地消等の推進による地域農業の振興

平成11年より、農業者リーダー会議のメンバーを主体として、地産地消を目的にほっと安堵ふれあい広場を開催し、安堵町内で栽培された朝とれたての新鮮野菜等を直売しています。「ほっと安堵ふれあい広場（ほっと安堵朝市）」では、地域住民との交流の場として販売促進をすることで、地域の活性化を図るとともに、農業の仲間づくりの場として情報交換や助け合いも行われています。

毎週日曜日の午前中より販売がされていますが、近隣に類似の販売所が出来たことにより販売量や来客数が減少傾向にあります。今後、出品者の増加や魅力ある農産物の出品などが課題となっています。

地産地消の取り組みとして、「ほっと安堵ふれあい広場（ほっと安堵朝市）」のほかに平成17

年度より食育の一環として学校給食に地場産の農作物を供給しています。現在、年4回程度、農産物を学校給食に供給していますが、収穫時期などにより、農作物を安定して供給することが困難となっています。今後、安定して供給できるよう、供給できる農作物を検討するとともに、地元の農家などと連携しながら、農作物を確保していくことが大切です。

一方、後継者問題の解決のためには、まず農業の魅力を伝え、収益をあげることが必要です。そのため、地域風土や気候に適した特産品を生み出す必要があります。現在、農業者リーダー会議を中心に試行錯誤しているところですが、農業者リーダー自体の高齢化や若手の新規会員の増員が課題となっています。また、遊休農地の解消を図るための農地の集約化も必要となっています。

施策の展開

重点目標及び施策の内容	実施主体
1. 農地の整備と担い手の育成	
町内の農地の整備を推進し、農地の無断転用の防止を図ります。	産業建設課
遊休農地をなくすため、農業者リーダー会議による農地の受委託を促進するとともに、受託する担い手の増加を図るため、経営面で工夫することを支援して、収益の安定をめざします。	
2. 地産地消等の推進による地域農業の振興	
「ほっと安堵ふれあい広場（ほっと安堵朝市）」の出品者数を増やし、出品数を確保するほか、利用しやすさを追及するなど、規模の拡大に合わせた事業展開に努めるとともに、農産物等即売所の設置を検討します。	産業建設課
学校給食などにおいて、地場産の農作物を安定して供給できるよう、供給できる農作物を検討するとともに、地元の農家などと連携しながら、農作物の確保に努めます。	
地域風土や気候に適した特産品を生み出し、農業の魅力を伝え、収益をあげることで後継者問題の解決を図ります。また、農業者リーダーの若手の新規会員の増員をめざします。	産業建設課
遊休農地対策として、農地の利用権設定制度を利用し、農地の集約化を図り、耕作機械の高効率化のもと、生産性の高い農業の推進を行って行きます。	



第2節 商工業

地元可愛され、地元と結びついた商業の展開と、西名阪スマートIC開設のインパクトを効果的に吸収するための工業の振興を図ります。

重点目標

1. 地域の暮らしと結びついた商業の活性化
2. 西名阪スマートICを活用した工業の振興

現状と課題

1. 地域の暮らしと結びついた商業の活性化

町内の商業地としては個人商店が中心となっており、日常の買い物は主に近隣の市町に出かけている状況です。そのため、産業フェスティバルの充実や拡大によって町内の商業についての周知を図る必要があります。

また、多様化する消費者ニーズに対応していくためには、講演会、研修会、相談指導体制等により人材・後継者を育成し、経営の改善・組織の体制を強化し、新たな企画への取り組みを通じて商業の近代化を図るとともに、新たな商店などの誘致も行うことが求められています。

2. 西名阪スマートICを活用した工業の振興

経営者及び従業員のゆとりある生活と工業の活性化をめざし、融資や振興を支援し、各種共済制度の促進に努め、イベント開催や情報提供ができるように商工会が設立されています。

工業の基盤としては、道路網の充実が必要となります。現在、都市計画道路、南北線及び安堵・王寺線の一部供用により、部分的に大型車輛の進入路ができつつある状況です。また、安堵町内に平成25年度完成予定の西名阪スマートICの設置により交通の利便性が大きく飛躍し、準工業地域の拡大に合わせた工業基盤の整備に向け、道路網の未完了部の早期完成をめざすことが重要となっています。

また、道路の整備に加え、地域の環境に配慮しながら企業の誘致を図り、就業の場の確保に努めることも大切です。

施策の展開

重点目標及び施策の内容	実施主体
1. 地域の暮らしと結びついた商業の活性化	
産業フェスティバルの充実や拡大によって町内の商業についての周知を図ります。	産業建設課
講演会、研修会、相談指導体制等により人材・後継者を育成し、経営の改善・組織の体制を強化し、新たな企画への取り組みや新たな商店などの誘致を通じて商業の近代化を図り、多様化する消費者ニーズに対応していきます。	
2. 西名阪スマートICを活用した工業の振興	
経営者及び従業員のゆとりある生活と工業の活性化をめざし、商工会の活動を引き続き推進します。	産業建設課
工業の基盤整備のため、道路網の充実を引き続き推進します。	
住民の生活に配慮するとともに、地域の特性に応じながら、良好な基盤を整備し、魅力ある就業の場の確保に努めます。	



第3節 観光

本町が持つ様々な歴史・文化的ストックを磨き光らせることにより、“安堵の個性”を発揮させ、観光資源として活用していくとともに、法隆寺等周辺地域との連携を促進し、安堵観光ネットワークの形成を図ります。

重点目標

1. 道路や観光情報等の基盤環境の整備・充実
2. 地域資源の再発見と周辺地域との観光ネットワークの形成

現状と課題

1. 道路や観光情報等の基盤環境の整備・充実

本町においては、富本憲吉記念館や町歴史民俗資料館、中氏邸など、歴史的な観光資源が存在します。今後は、大型観光バスが周遊できるような道路網の整備や駐車スペースの充実が求められています。

また、観光パンフレットの有効利用や、わかりやすい観光案内看板の設置、インターネットの活用、町のマスコットキャラクターの作成や特色あるお土産品作りにより、町内外に PR を図るとともに観光推進計画を作成していくことが重要です。

2. 地域資源の再発見と周辺地域との観光ネットワークの形成

町内には歴史的観光資源が点在しているため、太子道、業平街道などの広域的な整備を行い、行政区域を越えた散策道をメインとして、点在する史跡等を周遊できる観光ルートを新たに考えていく必要があります。

また、本町の文化的資源となる灯芯ひきの体験などを活かし、体験型観光を進めることも大切です。

施策の展開

重点目標及び施策の内容	実施主体
1. 道路や観光情報等の基盤環境の整備・充実	
大型観光バスが周遊できるような道路網の整備や駐車スペースの充実を図ります。	産業建設課
わかりやすい観光案内看板の設置、インターネットの活用、町のマスコットキャラクターの作成や特色あるお土産品作りにより、町内外に PR を図っていきます。	
2. 地域資源の再発見と周辺地域との観光ネットワークの形成	
太子道、業平街道などの広域的な整備を行い、行政区域を越えた散策道をメインとして、点在する史跡等を周遊できる観光ルートを新たに考えていきます。	産業建設課
灯芯ひきの体験など、本町の文化資源を生かした体験型観光を進めることを検討します。	
安堵町の歴史・文化等を総合的に発信できるような施設の整備を考えていきます。	

